

2121年12月14日～11日

世論調査 (NHK)

内閣支持 50%、不支持 26% (NHK 世論調査)

NHK2021年12月13日19時00分

内閣支持率 2013年1月～2021年12月 (%)



NHKの世論調査によりますと、岸田内閣を「支持する」と答えた人は、先月より3ポイント下がって50%だったのに対し、「支持しない」と答えた人は、1ポイント上がって26%でした。

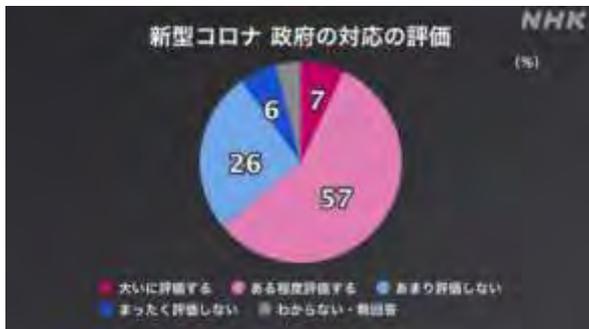
NHKは、今月10日から3日間、全国の18歳以上を対象にコンピューターで無作為に発生させた固定電話と携帯電話の番号に電話をかける「RDD」という方法で世論調査を行いました。

調査の対象となったのは、2093人で、57%にあたる1190人から回答を得ました。

岸田内閣を「支持する」と答えた人は先月より3ポイント下がって50%だったのに対し、「支持しない」と答えた人は、1ポイント上がって26%でした。

支持する理由では、「他の内閣より良さそうだから」が45%、「支持する政党の内閣だから」が18%などとなりました。一方、支持しない理由では、「政策に期待が持てないから」が38%、「支持する政党の内閣でないから」が21%などでした。

そのほかの質問



新型コロナウイルスをめぐる政府のこれまでの対応を、どの程度評価するか尋ねたところ、「大いに評価する」が7%、「ある程度評価する」が57%、「あまり評価しない」が26%、「まったく評価しない」が6%でした。



新型コロナウイルスの影響を受けた事業者への支援策などを盛り込んだ、経済対策の裏付けとなる総額35兆9800億円余り

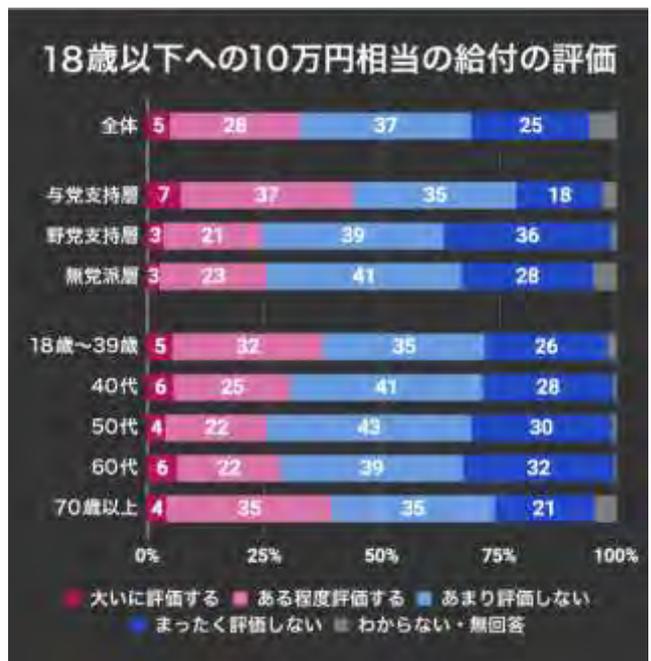
の補正予算案について、経済の回復の効果をどの程度期待できると思うか聞きました。「大いにできる」が1%、「ある程度できる」が31%、「あまりできない」が52%、「まったくできない」が9%でした。



18歳以下を対象にした10万円相当の給付について、政府は、所得制限を設けたうえで、現金とクーポンに分けて給付することを基本としています。

この給付を全体としてどの程度評価するか聞いたところ、「大いにする」が5%、「ある程度する」が28%、「あまりしない」が37%、「まったくしない」が25%でした。

詳しい分析をみる

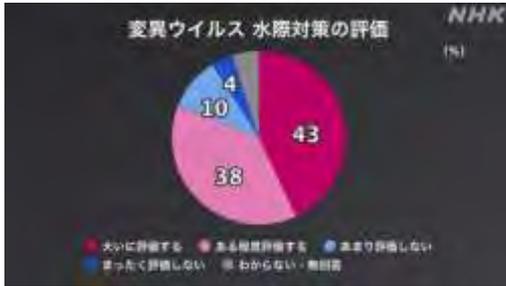


18歳以下を対象にした10万円相当の給付に対する評価を支持政党別に見ますと、与党支持層、野党支持層、無党派層のいずれも「評価しない」が「評価する」を上回りました。

野党支持層と無党派層では「あまり」と「まったく」をあわせ「評価しない」と答えた人がどちらもおよそ70%に上った一方、「大いに」と「ある程度」をあわせ「評価する」と答えた人は20%台にとどまりました。

また、与党支持層では「評価しない」と答えた人が53%で、「評価する」と答えた44%より多くなりました。

年代別に見ても、すべての年代で「評価しない」が「評価する」を上回り、特に50代で73%、60代で71%と「評価しない」の割合が高くなっています。

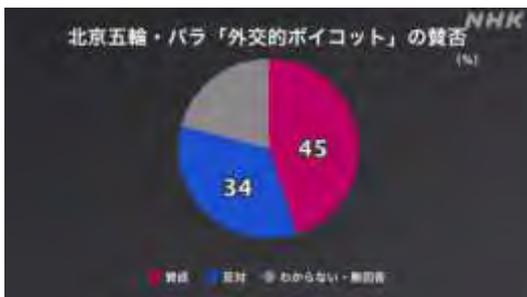


新たな変異ウイルス「オミクロン株」の水際対策として、政府が外国人の新規の入国を原則停止とした対応をどの程度評価するか尋ねたところ、「大いにする」が43%、「ある程度する」が38%、「あまりしない」が10%、「まったくしない」が4%でした。

ワクチンの接種間隔について

新型コロナワクチンの3回目の接種について、岸田総理大臣は、2回目との間隔を原則の8か月からできるだけ短縮する考えを示しています。

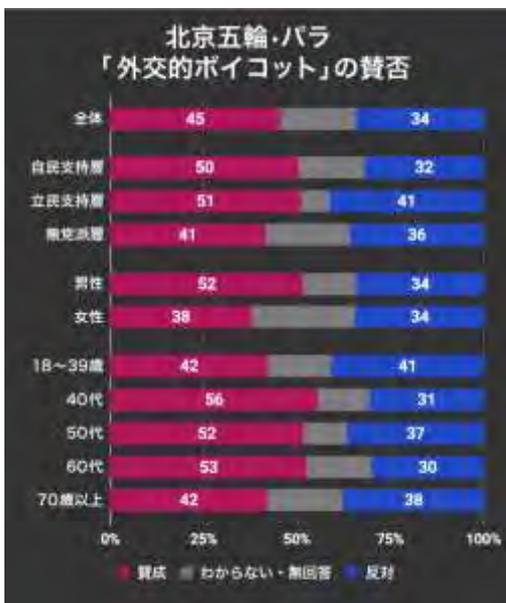
3回目の接種の前倒しについて聞いたところ、「前倒ししたい」が60%、「前倒ししなくてもよい」が25%、「接種はしない」が9%でした。



来年の北京オリンピックとパラリンピックについて、アメリカなどは中国での人権状況を理由に政府関係者を派遣しない「外交的ボイコット」をすることを決めました。

日本が「外交的ボイコット」をすることを賛否を尋ねたところ、「賛成」が45%、「反対」が34%、「わからない、無回答」が21%でした。

詳しい分析をみる

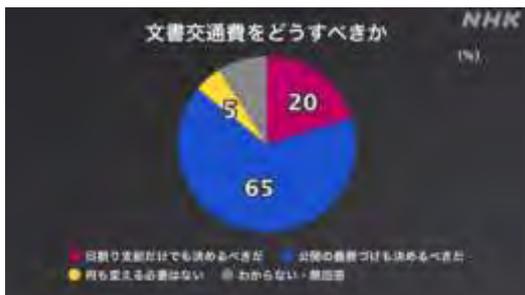


北京オリンピック・パラリンピックで、日本が「外交的ボイコット」をすることを賛否を支持政党別に見てみます。

自民党の支持層では「賛成」が50%で、「反対」の32%を上回りました。また立憲民主党の支持層では「賛成」が51%だった一方、「反対」は41%でした。無党派層は、「賛成」が41%、「反対」が36%で「わからない・無回答」が23%となりました。

男女別で見ると、男性では「賛成」が52%で、「反対」の34%を上回ったのに対し、女性は「賛成」が38%、「反対」が34%と同じ程度で、「わからない・無回答」が28%でした。

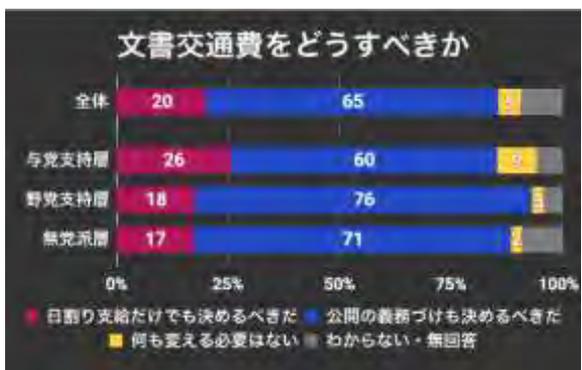
年代別に見ますと40代から60代で「賛成」が半数を超えました。一方、30代まででは「賛成」が42%、「反対」が41%となったほか、70歳以上も「賛成」が42%、「反対」が38%とそれぞれ意見が分かれました。



国会議員に毎月100万円支払われる、いわゆる文書交通費について、与党側は各党が一致する日割り支給に改めることを優先すべきだとしているのに対し、野党側は使いみちの公開も義務づけるべきだとしています。

今の国会でどうすべきだと思うか聞いたところ、「日割り支給だけでも決めるべきだ」が20%、「公開の義務づけも決めるべきだ」が65%、「何も変える必要はない」が5%でした。

詳しい分析をみる



今の国会で文書交通費をどうすべきかたずねた結果を支持政党別に見てみます。

「公開の義務づけも決めるべきだ」と答えた人は野党支持層で76%と特に多くなっています。また、無党派層でも公開の義務づけまで求める人が71%に上りました。

一方、「各党が一致する日割り支給に改めることを優先すべきだ」としている与党の支持層でも「公開の義務づけも決めるべきだ」と答えた人が60%に上っていて「日割り支給だけでも決めるべきだ」という人は26%にとどまっています。

野党の役割は提案か政権監視か

立憲民主党の泉代表は、批判ばかりしているという党のイメージを政策立案型の政党に変えていきたいとしています。

野党の役割として「政策の提案」と「政権の監視」のどちらがより重要だと思うか尋ねたところ、「政策の提案」が33%、「どちらかといえば政策の提案」が28%、「どちらかといえば政権の監視」が16%、「政権の監視」が11%でした。

年末年始に帰省・旅行をするか

年末年始に帰省や旅行をするかどうか聞きました。

「帰省や旅行をする」が11%、「帰省も旅行もしない」が66%、「まだ決めていない」が18%でした。

新型コロナウイルスの感染拡大が続いていた去年の同じ時期に行った世論調査と比べて、「帰省や旅行をする」と答えた人が6ポイント増えた一方、「帰省も旅行もしない」が15ポイント少なくなりました。

政党支持率 (%) ※ () 内は11月度調査 (11/5~7)

政党名	
自民党	34.9 (39.5)
立憲民主党	8.7 (8.2)
公明党	3.1 (4.0)
日本維新の会	7.3 (7.3)
国民民主党	1.7 (1.2)
共産党	2.9 (2.1)
れいわ新選組	0.5 (0.6)
社民党	0.8 (0.2)
NHKと裁判してる党弁護士法72条違反で	0.1 (0.2)
その他の政治団体	0.3 (0.5)
特に支持している政党はない	32.3 (28.6)
わからない、無回答	7.4 (7.8)

調査概要

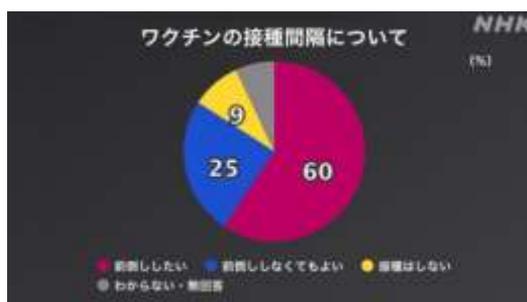
調査期間	12月10日(金)~12日(日)
調査方法	電話法(固定・携帯RDD)
調査相手	全国18歳以上 2,093人
回答数(率)	1,190人 (56.9%)

ワクチン3回目接種 「前倒ししたい」60% NHK 世論調査
NHK2021年12月14日 5時00分



新型コロナワクチンの3回目の接種について、NHKの世論調査で聞いたところ、2回目との間隔を原則の8か月から「前倒ししたい」と答えた人が60%に上りました。

NHKは、今月10日から3日間、全国の18歳以上を対象に、コンピューターで無作為に発生させた固定電話と携帯電話の番号に電話をかける「RDD」という方法で世論調査を行いました。調査の対象となったのは2093人で、57%にあたる1190人から回答を得ました。



新型コロナワクチンの3回目の接種について、岸田総理大臣は、2回目との間隔を原則の8か月からできるだけ短縮する考えを示しています。

3回目の接種の前倒しについて聞いたところ、「前倒ししたい」が60%、「前倒ししなくてもよい」が25%、「接種はしない」が9%でした。



立憲民主党の泉代表は、批判ばかりしているという党のイメージを政策立案型の政党に変えていきたいとしています。

野党の役割として「政策の提案」と「政権の監視」のどちらがより重要だと思うか尋ねたところ、「政策の提案」が33%、「どちらかといえば政策の提案」が28%、「どちらかといえば政権の監視」が16%、「政権の監視」が11%でした。



年末年始に帰省や旅行をするかどうか聞きました。

「帰省や旅行をする」が11%、「帰省も旅行もしない」が66%、

「まだ決めていない」が18%でした。
 新型コロナウイルスの感染拡大が続いていた去年の同じ時期に行った世論調査と比べて「帰省や旅行をする」と答えた人が6ポイント増えた一方「帰省も旅行もしない」が15ポイント少なくなりました。

NHK 世論調査 東京五輪 ことし7月の開催「よかった」は約5割

NHK2021年12月11日 6時31分

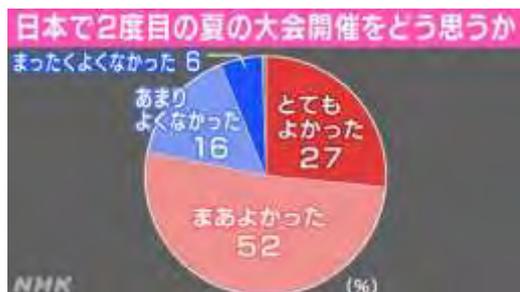


NHKの世論調査で新型コロナウイルスの感染拡大で東京オリンピック・パラリンピックが1年延期となり、ことし7月から開催されたことについて聞いたところ、「開催してよかった」が52%、「さらに延期したほうがよかった」が25%、「中止したほうがよかった」が22%でした。

NHK世論調査	
期間	ことし9月8日~10月15日
対象	全国20歳以上 3,600人
方法	郵送法
有効数(率)	2,217人(61.6%)

NHKは、ことし9月8日から10月15日にかけて全国の20歳以上を対象に郵送法で世論調査を行いました。

対象となったのは3600人で、61.6%にあたる2217人から回答を得ました。



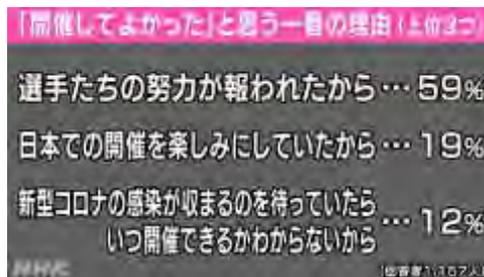
日本で2度目となる夏のオリンピック・パラリンピックが開催されたことについてどう思うか尋ねたところ、

- ▼「とてもよかった」(27%)と「まあよかった」(52%)は合わせて78%、
- ▼「まったくよくなかった」(6%)と「あまりよくなかった」(16%)は合わせて21%でした。



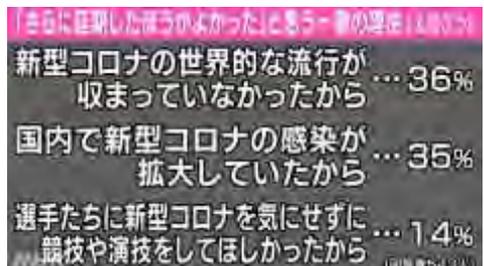
一方、新型コロナウイルスの感染拡大で大会が1年延期となり、ことし7月から開催されたことについては、

- ▼「開催してよかった」は52%、
- ▼「さらに延期したほうがよかった」が25%、
- ▼「中止したほうがよかった」が22%でした。



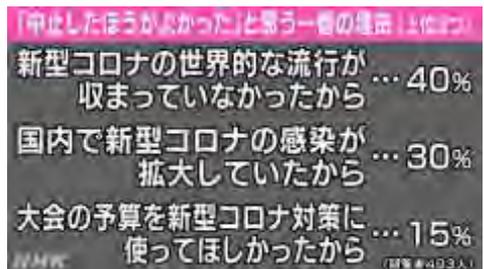
「開催してよかった」と思う一番の理由は何か聞いたところ、

- ▼「選手たちの努力が報われたから」が59%、
- ▼「日本での開催を楽しみにしていたから」が19%、
- ▼「新型コロナウイルスの感染が収まるのを待っていたらいつ開催できるかわからないから」が12%などでした。



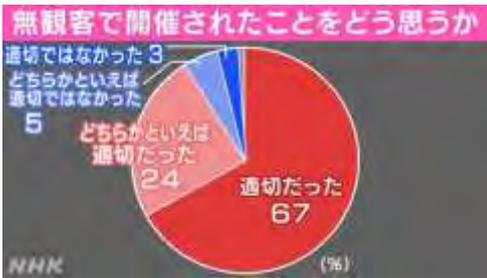
「さらに延期したほうがよかった」と思う一番の理由は、

- ▼「新型コロナウイルスの世界的な流行が収まっていなかったから」が36%、
- ▼「国内で新型コロナウイルスの感染が拡大していたから」が35%、
- ▼「選手たちに新型コロナウイルスを気にせずに競技や演技をしてほしかったから」が14%などでした。



「中止したほうがよかった」と思う一番の理由は、

- ▼「新型コロナウイルスの世界的な流行が収まっていなかったから」が40%、
- ▼「国内で新型コロナウイルスの感染が拡大していたから」が30%、
- ▼「大会の予算を新型コロナウイルス対策に使ってほしかったから」が15%などでした。



また、ほとんどの競技が無観客で開催されたことについては、
 ▼「適切だった」(67%) と
 「どちらかといえば、適切だった」(24%) が合わせて92%と多く、
 ▼「適切ではなかった」(3%) と
 「どちらかといえば、適切ではなかった」(5%) は合わせて7%でした。



このほか、大会が東日本大震災の被災地の復興に役立ったと思うかどうか尋ねたところ、
 ▼「とても役に立った」(3%) と
 「ある程度役に立った」(23%) が合わせて26%、
 ▼「まったく役に立たなかった」(23%) と
 「あまり役に立たなかった」(50%) が合わせて73%でした。
 こうした結果について、スポーツと社会の関わりが専門の筑波大学の高橋義雄准教授は「コロナ禍での開催となり、新型コロナウイルスと戦って社会全体で頑張ろうという気持ちが強い時期だった。日本の選手たちが多くのメダルを獲得したことで国民1人1人の気持ちが晴れた側面があったのではないかと話していました。

東京パラリンピック 障害者スポーツへの理解 “進んだ”が約7割

NHKの世論調査で、東京パラリンピックをきっかけに自分の障害者スポーツに対する理解は進んだと思うか聞いたところ、「かなり進んだ」と「ある程度進んだ」が合わせて70%でした。

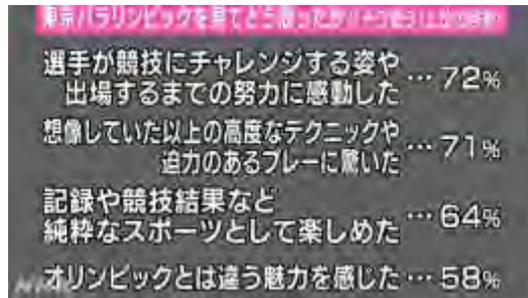
NHKは、ことし9月8日から10月15日にかけて全国の20歳以上を対象に郵送法で世論調査を行いました。

対象となったのは3600人で、61.6%にあたる2217人から回答を得ました。



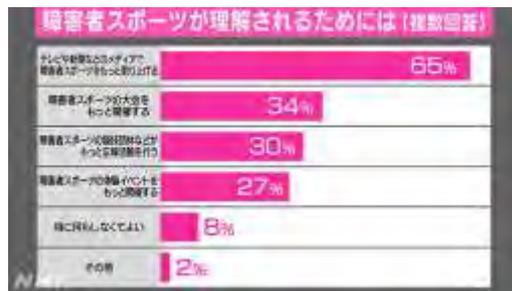
東京パラリンピックをきっかけに障害者スポーツへの理解は進んだと思うか聞いたところ、

- ▼「かなり進んだ」(17%) と
「ある程度進んだ」(53%) が合わせて70%、
- ▼「まったく進んでいない」(6%) と
- ▼「あまり進んでいない」(19%) が合わせて25%でした。



また、東京パラリンピックを見てどう思ったか、選択肢の中から自分の考えに近いものを選んでもらったところ、「そう思う」という回答が多かったのは、

- ▼「選手が競技にチャレンジする姿や出場するまでの努力に感動した」が72%、
 - ▼「想像していた以上の高度なテクニックや迫力のあるプレーに驚いた」が71%とともに7割を超えました。
- 次いで、
- ▼「記録や競技結果など純粋なスポーツとして楽しめた」が64%、
 - ▼「オリンピックとは違う魅力を感じた」が58%などでした。



このほか、障害者スポーツが理解されるためにはどうすればいいか、複数回答で尋ねたところ、

- ▼「テレビや新聞などのメディアで障害者スポーツをもっと取り上げる」が65%で最も多く、次いで
- ▼「障害者スポーツの大会をもっと開催する」が34%、
- ▼「障害者スポーツの競技団体などがもっと広報活動を行う」が30%などとなりました。